

日蓮大聖人御書全集

うえのどのごへんじ

上野殿御返事

しょうがつみつかこと

（正月三日の事）

新版
1897

うえのどのごへんじ　しょうがつみつか　こと

上野殿御返事（正月三日の事）

こうあん　ねん　がつ　にち　さい　なんじようときみつ

弘安3年（'80）1月11日　59歳　南条時光

むしもちろくじゆうまい　せいすひとつつ　やまのいもごじゅつぽん　こうじにじゅう　くしがきいちれん

十字六十枚・清酒一筒・薯蕷五十本・柑子二十・串柿一連、

おく　た　そうら　お　ほけきよう　ごほうぜん　飾　まい

送り給び候い畢わんぬ。法華經の御宝前にかざり進らせ

そうろう　はる　はじ　みつか　しゅじゅ　もの　ほけきよう　ごほうぜん　ささ　そうら

候。春の始めの三日、種々の物、法華經の御宝前に捧げ候

お

い畢わんぬ。

はな　ひら　み　つき　い　かなら　満　ともしび　あぶら

花は開いて果となり、月は出でて必ずみち、灯は油を

差　ひかり　ま　そうもく　あめ降　栄　ひと　ぜんこん

させば光を増し、草木は雨ふればさかう。人は善根をなせ

かなら　栄　うえ　がんざん　おんこころざし　がんいち　こ　じゅうじ

ば必ずさかう。その上、元三の御志、元一にも超え、十字

もちい まんげつ

ことごと

もう

そうろう

の餅、満月のごとし。事々またまた申すべく候。

こうあんさんねんかのえたつししょうがつじゅういちにち

にちれん かおう

弘安三年庚辰正月十一日

日蓮 花押

うえのどの

上野殿